

富山市地域公共交通活性化・再生総合事業

平成21～23年度

富山市では自動車への過度な依存により低密度な市街地が郊外に拡散し、公共交通が衰退した結果として生じた「自動車を自由に使えない市民にとって移動しづらい」「行政コストの増大」「都心部の空洞化による都市全体の活力や魅力低下」などの課題に対応するため、まちづくりの方針として「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」の実現を目指している。本事業においては、本市が目指すまちづくりを推進するため、都心部を中心にLRT化等による公共交通の利便性と魅力の向上、さらには、まちづくりと一体となった公共交通の活性化策に取り組むものである。

富山市都市交通協議会

(構成員)

富山市、富山県、国交省北陸地方整備局、同北陸信越運輸局、富山県警察本部、JR西日本(株)、富山地方鉄道(株)、富山ライトレール(株)、(株)まちづくりとやま、道路管理者、学識経験者、商工関係者

事業の概要(22年度)

①市内電車環状線化事業

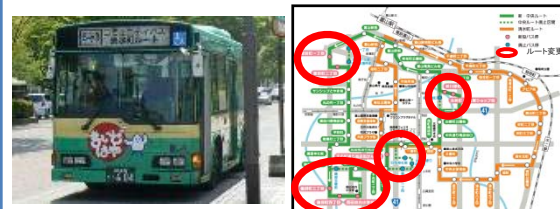
実施額:5,670(千円)



H21.12に開業した市内電車環状線の利用実態調査や利用者等へのアンケート調査

②中心市街地活性化コミュニティバス運行社会実験

実施額:2,560(千円)



運行ルートの見直しと見直し後の運行ルート(社会実験)による利用実態の調査

③富山ライトレールイベント電車運行事業

実施額:4,003(千円)



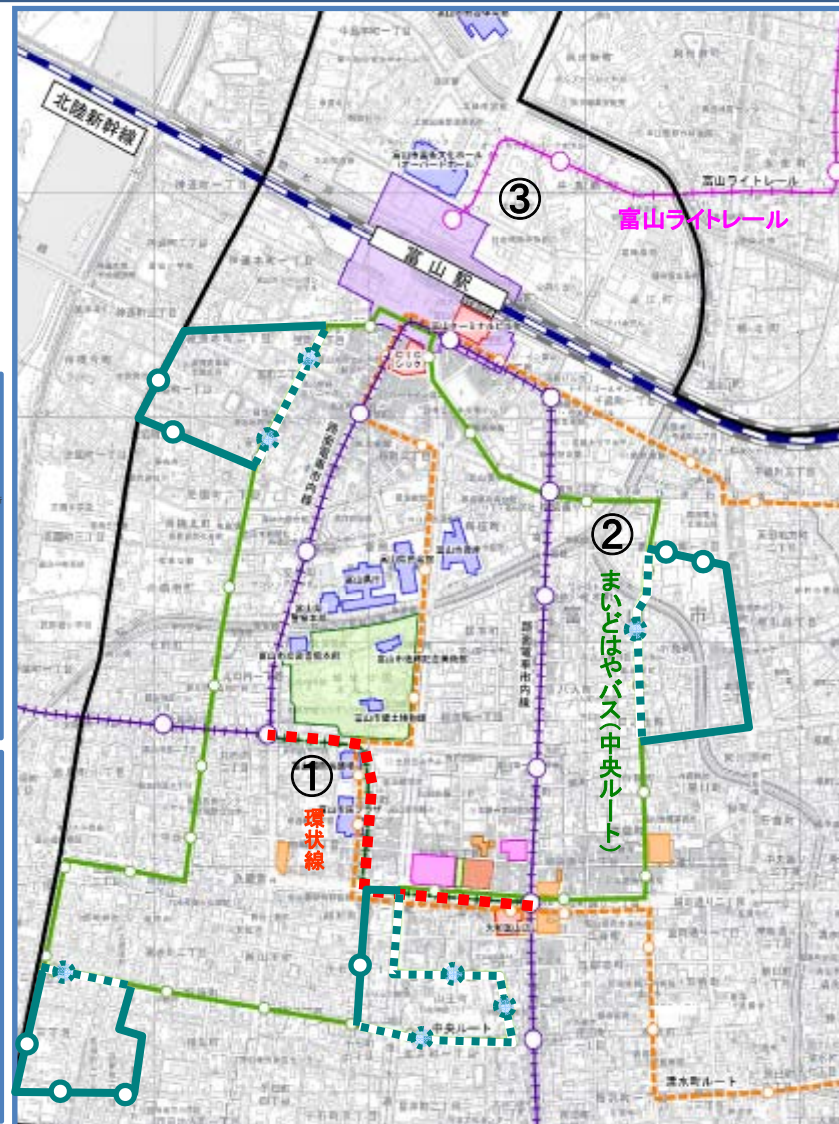
イベント等と連携した、車両や電停の装飾による利用促進

④市民意識啓発事業(モビリティ・マネジメント)

実施額:8,190(千円)



アンケート形式によるコミュニケーション施策、フォーラム開催などによる意識啓発



22年度 導入への プロセス

富山市公共交通活性化計画(平成19年度)

本市が目指すコンパクトなまちづくりの推進に向けた、公共交通活性化基本方針と施策を位置付け

富山市総合交通戦略(平成19年度)

本市が目指すコンパクトなまちづくり実現のための都市交通施策および都心部における都市交通戦略の策定

富山市交通空白輸送地域公共交通会議(平成21年度)

中心市街地を走行するコミュニティバスのさらなる利用者の増加など活性化を図るため、運行ルートの見直しについて検討

富山市都市交通協議会(平成19年度～)

富山市地域公共交通連携計画の策定と事業の推進に係る事業者らとの合意形成(平成21年度:2回開催)

22年度 事業の 効果

市内電車利用者の増加

・市内電車全体として、平日・休日ともに環状線開業後の利用者は開業前に比べ増加した

(平日:42%の増加 休日:12.8%の増加)

コミュニティバス利用者の大幅増加

・ルートを変更した箇所においては、変更前に比べて変更箇所のバス停利用者が大幅に増加し、ルート全体としても、年間の乗車人数は約7.4%の増加となった

(ルート変更箇所全体における、変更前に対する利用者の割合:乗車:206.5% 降車:176.3% 全体:188.3%)

市民への意識啓発

・各施策の実施により、延べ4.1万人(推計)に「かしこいクルマの使い方」に関して、コミュニケーションを図ることができた

・各施策を通じ、公共交通に対する意識付けや行動変容への動機付けへのきっかけづくりを図ることができた

イベントとの連携による利用促進

各種イベントの開催に併せ、車両ラッピングや電停の装飾を実施し、イメージアップによる利用促進を図った

次年度 以降

利便性向上、機能強化を図りながら 公共交通のさらなる利用促進に向けて取り組む

<市内電車環状線の利用状況の把握>

・市内電車環状線化事業(利用状況調査等:平成23年度)

<利用促進施策(イメージアップ、意識啓発)>

・車両装飾事業(車両、電停装飾:平成23年度)

・市民意識啓発事業(モビリティ・マネジメント:平成23年度)

<利用環境の向上>

・交通系ICカード導入推進事業(高齢者や利用回数に応じた割引サービスの導入:平成23年度)

・市内電車活性化事業(電停上屋設置:平成23年度)

・バス交通活性化事業(バス停上屋設置:平成23年度)

<利便性向上>

・地鉄不二越・上滝線活性化事業(増発社会実験:平成23年度)